

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 10 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,395 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+3.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,111 円（伸び率+4.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,612 億円（伸び率+3.8%）、薬剤料が 4,771 億円（伸び率+2.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 863 億円（伸び率+15.0%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,558 円（伸び率 4.2%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.87 種類（伸び率+0.4%）、23.1 日（伸び率+3.6%）、84 円（伸び率+0.2%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,902 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+133 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 810 億円（伸び幅▲8 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の+58 億円（総額 692 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,902 億円 (+133 億円)	21 循環器官用薬 (810 億円)	11 中枢神経系用薬 (692 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (577 億円)
0 歳以上 5 歳未満	37.1 億円 (▲6.2 億円)	44 アレルギー用薬 (16.2 億円)	61 抗生物質製剤 (8.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (6.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	90.4 億円 (▲7.3 億円)	44 アレルギー用薬 (36.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (18.3 億円)	61 抗生物質製剤 (12.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,340 億円 (+22 億円)	11 中枢神経系用薬 (298 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (211 億円)
65 歳以上 75 歳未満	958 億円 (+20 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (171 億円)	11 中枢神経系用薬 (118 億円)
75 歳以上	1,476 億円 (+105 億円)	21 循環器官用薬 (326 億円)	11 中枢神経系用薬 (258 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (190 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,111 円（伸び率 +4.3%）で、最も高かったのは北海道（10,807 円（伸び率 4.4%））、最も低かったのは佐賀県（7,816 円（伸び率+1.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+9.2%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率+1.8%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 863 億円（伸び率：+18.6%、伸び幅：+135 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	69.4%	+2.5%
薬剤料ベース	18.1%	+2.2%
後発品調剤率	70.0%	+2.5%
（参考）数量ベース（旧指標）	48.1%	+3.2%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+18.6%	+23.2% (70 歳以上 75 歳未満)	+7.7% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.9%	19.2% (65 歳以上 70 歳未満)	13.0% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	770 億円 (+125 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	23 消化器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (86 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.4 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (1.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.0 億円 (+2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.0 億円)	61 抗生物質製剤 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	256 億円 (+41 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)	23 消化器官用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	195 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	23 消化器官用薬 (28 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	293 億円 (+48 億円)	21 循環器官用薬 (94 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,229 円	1,615 円（北海道）	1,026 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.3%	+23.4%（徳島県）	+14.6%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	69.4%	79.8%（沖縄県）	61.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.1%	22.4%（鹿児島県）	15.4%（徳島県）
後発医薬品調剤率	70.0%	78.9%（沖縄県）	64.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	48.1%	58.1%（沖縄県）	43.1%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 10 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。